

「神様からのオファー」 ルカ 1：26～38

I 導入部

おはようございます。12月最初の礼拝となりました。今日は、アドベント第一礼拝、イエス様のご降誕を待ち望みつつ、愛する皆さんと共に礼拝をささげることができますことを感謝致します。

昨日は、青葉台駅前クリスマスが行われました。私のメッセージの当番で、聖歌隊の素晴らしい賛美を聞いているうちに、恐れが襲い、心臓がバクバクしてきましたが、メッセージできることを楽しもうと思い、皆さんの前に立つと、楽しく語ることができました。皆さんのお祈りに感謝します。ご奉仕下さった方々、参加して下さいました方々、お祈りで支えて下さった方々に、心から感謝します。クリスマスはこれからです。楽しみましょう。

今日は、アドベント第一礼拝、定番の定番、ルカによる福音書1章26節から38節を通して、「**神様からのオファー**」と題してお話し致します。

II 本論部

一、神様に忘れられることはない

26節には、天使ガブリエルがガリラヤのナザレという町に遣わされた、とあります。ナザレという名前は、旧約聖書には一度も出て来ません。新約聖書のヨハネによる福音書1章46節には、「**ナザレから何か良いものが出るだろうか**」とされています。ナザレという場所は無名の田舎町、忘れられた場所、何も期待されていない場所であったということがわかります。プロ野球選手で言えば、戦力外通告を受けたということでしょう。

そのようにナザレという場所、歴史的に見ても、何もない。価値もない。由緒もない。むしろ、先ほどの、「**ナザレから何か良いものが出るだろうか**」という言葉にあるように、むしろ軽蔑の対象として見られていたナザレから、ナザレに住むマリアから、神様は救いの業を始めようとされたのです。ここに深い神様のみ心、お心があるのです。

人生の中で、信仰生活の中で、自分だけが取り残されたような、忘れ去られているような経験があるかも知れません。むしろ、無視され、軽蔑されるような経験を持つかも知れません。しかし、神様はナザレに住むマリアを用いて、救いの業を完成されたように、あなたを選び、あなたの信仰を通して、あなたの生きざまを通して、大いなる神様のみ業を行われるのです。そのことを信じたいと思うのです。

このマリアさんは、救い主イエス様を産んだ後、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモン、そして、女の子を少なくとも2名産んでいます。ですから、救い主の母親だから、優雅に、セレブのように過ごしたのではなく、子育てに追われながら、貧しい生活を送ったのです。

マリアさんは、救い主の母親として、特別な人、高貴な人、セレブ、アスリート、選ば

れるべき人として、目立ち、キラキラ輝いて生きたのではありません。ただ、平凡な、普通の、選ばれる価値のない女性として、マリアは生きていたのです。

しかし、神様の選びはすでに決定されていたのです。イザヤ書7章14節には、「**それゆえ、主が御自ら、あなたたちにしるしを与えられる。みよ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。**」

天使ガブリエルは語りました。30節、「**マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。**」 マリアは、神に選ばれ、恵みを受ける者とされていたのです。

二、神様の語られる恵み

前後しますが、28節のカッコには、「**おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。**」とあります。突然の天使の来訪と言葉にマリアは驚きます。戸惑い、胸騒ぎがします。天使は、「**恵まれた方**」と言いました。「**恵み**」というのは、宗教用語ですね。クリスチャンの方は、クリスチャン同士では、「**恵み**」という言葉を使いますが、クリスチャンでない方との会話では、あまり、「**恵み**」という言葉は使わないのではないのでしょうか。

天使は、「**恵まれた方**」と言いましたが、その後の天使の言葉に、恵みどころか恐れや不安でしかなく、恵みとは感じられないような出来事だったと思うのです。天使を通して言われる神様の恵みとは、マリアがヨセフと結婚生活をしないでイエス様を産むということでした。マリアにとっては、ヨセフと結婚生活をして、子どもを産むということだったでしょう。皆さんにとっては、「**恵み**」とは、何でしょうか。聖書が言う「**恵み**」とは、幸せとは違うように思うのです。家族が与えられ、みんなの健康が支えられて幸せ。経済的にも守られ、祝福されて幸せ。苦しみや問題もなく、信仰生活が守られて幸せ。これは、「**恵み**」というのとは違うのではないでしょう。では、天使が言った「**恵み**」とはどのようなものでしょうか。

ヨセフが知らない所で、マリアが妊娠するという事は、マリアにとって困ることです。宗教的には、姦淫という汚名を着せられ、人生が終わってしまいます。マリアにとっては、天使が語ることは、自分では望まない出来事だったのではないでしょう。29節には、「**マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。**」とあります。そして、男の子を産むとか、偉大な人とか、ダビデの王座と聞いて、「**どうして**」と叫んだのです。マリアにとっては、困るような内容でした。しかし、神様は、「**恵み**」だと言うのです。

私たちも、自分の望まないような経験をするところがあるでしょう。肉体的な痛みや苦しみ、経済的な困難、人間関係のもつれ、いろいろな苦しみを経験します。そのような自分には、望まないような経験さえも、神様は「**恵み**」だと言われ、「**恵み**」として下さると約束しておられるように思うのです。私たちは、今どのような所に置かれていようとも、その苦しみの場所を、痛みの場所を恵みの場所として下さるのです。

三、神様のやさしさに包まれて

自分の望まないような出来事を語られ、「**どうして**」と叫ぶマリアに天使は語るのです。

35節には、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。」とあります。「聖霊があなたに降る」と約束しました。ルカ11章9節から13節には、求めなさい、と語り聖霊について語っています。13節には、「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」とあります。

聖霊は良い物を与えて下さる。聖霊は良い事を引き起こす力、良きものをもたらす力です。その聖霊がマリアの上に降り、彼女の起こる出来事を良きものにして下さるのです。

また、「いと高き方の力があなたを包む。」と言われました。神様の愛が、神様のやさしさがマリアを包むのです。マリアに語られた内容は、マリア自身にとっては、望まない出来事、不都合な出来事です。しかし、それらのものを良きもの、恵みとして下さるのです。聖霊が、神様の力が、マリアにとって、悪いと思えること、良くないと思える事柄を受け入れることができる信仰と力を与えて下さるのです。神様の愛に満たされるのです。

私たちの人生にも、自分の望んでいなかったような出来事が、夢も希望もないような出来事が起こります。つらい時間を過ごす時があります。しかし、神様はそれらの事柄を、神様の愛とやさしさと聖霊で包んで下さるのです。そして、私たちにとって、苦しい事や悲しい事、嫌な事さえも受け入れて、それらを神様の恵みとして受け入れることができるようにして下さるのです。最初語られた時、「主があなたと共におられる」と言われました。神様がいつも共におられるのです。困った時、助けて下さるというのではなく、いつも、いつもあなたと共におられる。苦しい時もあなたと共におられるのです。

マリアは答えます。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」マリアの深い信仰というよりも、聖霊が降るという約束といと高き方の力がマリアを包む、という約束のゆえに、応答できたマリアの言葉のように思うのです。

昨日の駅前キャロルで紹介した星野富弘さんの詩です。「何のために生きているのだろう。何を喜びとしたらよいのだろう。これから、どうなるのだろう。その時、あなたが一枝の花を置いてくれた。力を抜いて、重みのあるままに咲いている。」

首から下が動かなくなった星野さんに、神様は、一枝の花を置いて、自分の力で生きるのではなく、生かされていることを示して下さり、自分の置かれた場所、境遇を受け入れて、生きる美しさに気づかされた時の詩です。星野さんは、自分の苦しい状況を受け止めながら、マリアのように、神様に応答して、詩を通して、神様を見上げておられるように思うのです。

Ⅲ 結論部

イエス様は、マリアさんを母として、胎に宿られました。マリアさんに命を預けたと言ってもいいでしょう。それが、神様のご計画でした。私たちのために十字架について罪を解決して下さるために、生まれて下さいました。このクリスマス、私たちを愛し、一人ひとりのために生まれて下さったイエス様の誕生を共にお祝いしましょう。マリアさんは神様にオファーされました。そして、あなたも神様が、神様の働きのためにオファーされ、あなたを神様の働きのために用いられるのです。この週も主に信頼して歩みましょう。